



e-La Voz
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
日本語放送
メールマガジン
(第49号)

2007年4月8日発行

フロリダ半島ふれあい1千キロの旅

粉雪が乱舞するシカゴ空港を飛び立ち、陽光輝く常夏の国を夢見て2時間半、なんとか無事にフロリダ半島南端マイアミ空港に降り立ちました。ところが、ここも冬のさなか、肌寒い風に身をすくめてしまいました。

まず、マイアミ聖書教会での3日間の宣教大会に出席。エクアドルからはHCJB音楽宣教師として尾崎道夫(私の長男)家族とホルヘ・サンブラーノ夫妻が招待され、ほかに英領ギアナ、スペイン、フランス、インドなどで活躍する宣教師も参加してその活動報告がおこなわれました。この教会はキューバからの移住家族兄弟4人が力をあわせて建て上げたもので、まだ自分たちの会堂がなくても世界宣教をというビジョンに燃えています。

宣教大会が終わった翌朝、教会員からミニバンを借りて道夫家族とフロリダ半島ぐるり1千キロの旅に出ました。マイアミ郊外から北西に走ると大湿地帯を突き抜けます。といってもフリーウェイの上なので名だたる国立公園エバーグレイズも道路標識だけで、周囲の草むらに生息するワニは想像のみ。幅広いコンクリートの一本道を4時間近くかかって最初の目的地シェルポイントに着きました。ここは日本の神学校創設者ドナルド・ホーク博士の帰国後の保養地で、博士が天に召されてまだ3ヶ月ですが、夫人はいつもの笑顔で卒業生の私を迎えてくれ、お互いに思い出話を語り合うことができました。

景色に変化のない高速道路では、時速100キロ以上で飛ばしてもスピード感はありません。つぎの訪問地ブラデントンまでは予定どおりの時間に着き、待っていたHCJBでの昔の仲間3人とひさしぶりに顔を合わせました。



ハーディ・ヘイズさん:戦後間もなく日本でキリスト教放送局の開局を願っていた人です。許可が下りなかったため、エクアドルのHCJBで働くことになりました。日本語放送は、はじめは日本から送った録音テープで放送したのですが、現地スタッフが日本語がわからずテープを逆まわして放送していました。それをみつけたのがハーディさん。「テープではなく、人を送ってくれ。」とのひと言で日本から初の電波宣教師が送り出されることになったのです。「ハーディさんのおかげです。」とお礼をいうと、「ひょうたんから駒です。」その飛び出した駒(馬)はアンデスの空を駆けめぐりました。

ナンシー・ウールノーさん:日本語放送開始に先駆けて番組制作からスタジオ設備操作の一切を特訓してくれた大先輩です。現役中は30分のカリブ周辺国向けの30分番組をはじめ、連続物語「ロビンソン・クルーソー漂流記」「エクアドルの五人の殉教者」「雨だれ君の冒険」など数々の人気番組を生みだしたベテランです。貴重な資料やアドバイスをよくいただきました。週末はピクニックへ、クリスマスには靴下にプレゼントをと、私たち家族にとって「ナンシー伯母さん」は忘れられない人となりました。今も部屋に飾られているHCJB時代の品々が当時をしのばせてくれました。

ベティ・ハーキングズさん:HCJB病院付の医療宣教師で、ナンシーさんの主治医として、また良き相談役として長年つきそっている心やさしい人です。私が胃潰瘍で倒れたときも真っ先にかけてくれました。

ハーディさんは、みんなを「バレンタインの贈り物」としてレストランに招待してくれました。おかげで食事をしながらまるで同窓会のような気分でわいわいがやがやと楽しいひとときを過ごすことができました。

そのあと、フロリダ半島を横断しながら3家族を訪問し、はるか彼方に宇宙船発射基地ケープ・カナベラルをのぞみながらマイアミに向って南下。ウエスト・パームまでもどってきました。ひょっとしてそこには以前HCJB英語部にいたレイノルドさんがまだいるかもしれない、ということで立ち寄ってみることにしました。滑走路の両脇に自家用飛行機の格納庫と住宅がならぶ一軒に近づくと、なんと、夢か、幻か、そこに本人が立っているではありませんか。お互いに顔を見あわせて34年ぶりの再会！ 娘の出産のため今住んでいるノース・キャロライナから着いたばかりだときいて、そのグッド・タイミングにまたまたびっくり。彼はマイアミのFM局でニュース・キャスターをしていたのでHCJBでも独創的な番組づくりで注目の的でした。またパイロット免許をもっているので、最近ハリウッドで映画化した「エクアドルの五人の殉教者(End of the Spear)」で小型機の操縦で出演したとのことでした。今頃は、元気な2人目の孫の誕生でご夫妻ともに目を細めてよろこんでおられることでしょう。

最後の夜はロドリゴ・ロドリゲスご夫妻の家に1泊しました。ロドリゲスさんはエクアドル人ギタリストで現在はアメリカに住んでいますが、プラバ市交響楽団と共演したほか、ハンガリー、メキシコ、キューバ、プエルトリコ、ブラジル、エクアドルなどで演奏会をひらいています。日本にもぜひ行きたいというのが今の願いだそうです。ぜひ実現させてほしいですね。

(＜フロリダ半島ふれあい1千キロの旅＞は4月14日と21日に放送予定です。)

HCJB日本語放送担当

在 主 尾 崎 一 夫

HCJB日本語放送(オーストラリア送信):

放 送 日 時 : 毎週土曜日、日曜日
日本時間 0730 - 0800 (2230 - 2300UTC)
送 信 周 波 数 : 1 5 5 2 5 k H z (1 9 m b)
受信報告書の宛先 : 〒169-0073
東京都新宿区百人町1-17-8
淀橋教会HCJB係
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2007 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>
Eメール: kozaki@hcjb.org
郵便の宛先:

Mr. Kazuo Ozaki
1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
